

重点目標と方策		自己評価、課題と改善策(A:高度に達成,B:おおむね達成,C:もう一步, D:抜本的改善が必要)	
I 学習指導	【重点目標】 基礎・基本を重視し、日々の授業が大切だと感じる生徒を育成 【方策】 ①教科の魅力と学ぶ姿勢を植えつける「考える・分かる」授業改善 ②各教科の育成する能力と年間授業計画の活用と検証 ③教材のデジタルコンテンツの蓄積と活用による自学自習の育成 ④ネイティブの会話を通して、国際理解の深化と国際協調の理解	【自己評価】 (〔 〕内は実績、【 】は昨年度) ・学習指導に対する肯定的意見 A[82%]【70%】 ・オンライン英会話事業 A[80%]【新規】 ・生徒間の対話的授業実施 B[84%]【81%】 ・ICT機器等活用 A[88%]【92%】 ・デジタル教材活用(動画・双方向利用など) C[36%]【新規】 【課題と改善策】 ・授業がわかる教材や進め方により理解度は向上している。自学自習には繋がっていない。 ・オンライン英会話は1年生が行ったが、教員の事前準備がないと難しい。	評価 A
II 生活指導	【重点目標】 自主自律の心を育み、主体的に行動する生徒を育成 【方策】 ①全教職員体制で一貫した生活指導と校則の見直し体制の構築 ②普段から挨拶や身嗜み、社会人の心構えの向上 ③特別指導に発展させない、生徒に寄り添う丁寧な生活指導 ④生徒の部活動・学校行事への主体的な参加	【自己評価】 (〔 〕内は実績、【 】は昨年度) ・ヘルメット着用意識 B[20%]【7%】 ・美化に対する意識向上 B[76%]【新規】 ・校則見直し等の活動 B[3回]【1回】 ・生徒の校則の遵守 A[85%]【新規】 ・生徒の言葉遣いに対する意識や礼儀の遵守 C[72%]【新規】 【課題と改善策】 ・ヘルメット着用など安全意識が伝える新たな運動を計画する。 ・生徒のルールを守る意識と理解は進んでいる。「時と場所」や「集団での行動」など行事や部活動を通して、場面が違った時の対応を身に付けさせる。	評価 B
III 進路指導	【重点目標】 キャリア教育を推進し、進路希望を具体化させた進路決定率を維持・向上 【方策】 ①1年次より「進路の手引き」活用し、実感する進路意識向上 ②検定試験の受検を奨励し、自己のスキルアップへの意欲の向上 ③進路ガイダンスや説明会等、個人、三者面談による進路実現	【自己評価】 (〔 〕内は実績、【 】は昨年度) ・進路指導に対する肯定的意見の割合 B[73%]【63%】 ・進路決定率 A[88.9%]【87%】 ・各種検定の受検者 B[受検者 245名]【新規】 ・進路未定率 B[11.1%]【13%】 【課題と改善策】 ・進路決定時期が遅くなっている。進路を考える機会をさらに計画的に行う。 ・学年担当を進路指導部に作り、学年と進路の情報共有を強化する。	評価 B
IV 特別活動	【重点目標】 感動体験による帰属意識や貢献意識を高揚させ、地域連携を通じた社会貢献 【方策】 ①社会の人材等の教育制度を活用し、生徒の知識や技術の充実 ②生徒が主体となる機会を増やし、健全な社会性の育成 ③地域清掃や行事、貢献活動を推進し、信頼される学校に発展 ④在校生・卒業生の思い出に残る創立50周年記念式典の開催	【自己評価】 (〔 〕内は実績、【 】は昨年度) ・部活動加入率 B[56%]【46%】 ・地域貢献活動 A[18回]【新規】 ・クラスや部活動での良い友好関係が築けた割合 B[82%]【75%】 ・部活動や学校行事に対する生徒の肯定的意見の割合 B[77%]【71%】 【課題と改善策】 ・部活動の加入率が上がってきた。更に生徒の主体的な活動ができる場を作り、勉強以外での達成感を生徒に体感させる。	評価 B
V 心身の健康づくり	【重点目標】 生徒理解に基づいた適切な手立てで、将来に繋がらない中途退学者の減少 【方策】 ①いじめの未然防止・早期発見・早期対応への組織的な体制確立 ②担任・SC との教育相談体制を強化し、気になる生徒等への保護者連絡、家庭訪問、計画的な面談の実施 ③体罰の禁止及び根絶に向けた研修を実施。互いに確認する意識の啓発 ④体育的な学校行事の実施による、体力向上への意識の向上	【自己評価】 (〔 〕内は実績、【 】は昨年度) ・いじめへの対応 B[4件]【2件】 ・生命に関わる重大事故 B[0件]【0件】 ・教育相談研修会 B[3回]【3回】 【課題と改善策】 ・担任の気づきにより重大事故に繋がることなく早期対応ができています。課題を抱えた生徒は多く、SC・教育相談・学年団との連携と情報管理を徹底する。 ・学校生活の楽しさや退学では教育機関に繋がる転学意識を植えつけさせる。 ・今年度、体育祭は雨天中止となった。来年度に向けて予定日等の工夫を施す。	評価 B

Ⅵ 広報活動	【重点目標】 広報活動を改善し、地域から選ばれる学校として、応募倍率向上 【方策】 ①学校 HP と学校案内を改善し、見学会・説明会の参加者数の向上 ②出前授業など地域の中学校訪問の実施と内容の改善 ③地域から選ばれる学校へ変革させ、入学選抜検査の応募倍率向上	【自己評価】（〔 〕内は実績、【 】は昨年度） ・学校 HP の更新回数 B[394 回]【489 回】・見学会・説明会の来場者数 A[443 人]【335 人】 ・推薦の応募倍率 A[1.22 倍]【0.93 倍】 ・学力検査の応募倍率 C[0.54 倍]【0.52 倍】 【課題と改善策】 ・HPや学校案内を改善し、広報活動は一定の成果があった。受験生に野津田の魅力をさらに発信する。	評価 B
Ⅶ 学校経営・体制	【重点目標】 信頼される学校の「組織・校風」づくり 【方策】 ①企画調整会議と教科主任会を軸に連携させ、学校課題や校内規定の改善 ②法規法令の遵守の意識を向上と服務事故の根絶 ③クリーンデスクを図り、机や使用施設の施錠を徹底 ④地域関係機関と連携した防災訓練や共催事業による教育活動の充実 ⑤必要最小限の超過勤務とし、ライフ・ワーク・バランスを推進	【自己評価】（〔 〕内は実績、【 】は昨年度） ・月 45 時間以上の超過勤務平均 B[9.3 名]【11.2 名】・年休取得率 C[51.2%]【49.7%】 ・年間 360 時間以上の超過勤務 C[16 名]【22 名】 【課題と改善策】 ・服務事故があり猛省するとともに、今後は起こさない。また教員相互に確認しあい、起こさない雰囲気づくりと、相談できる職場に改革する。 ・教職員ともに年休や各種休暇制度を活用しているが、超過勤務が減らない。超過勤務にならない声掛けや定時退庁日を設定する。	評価 C
Ⅷ 学年	【重点目標】 3年間を見通した継続的・計画的な指導を通した生徒の社会人としての育成 【方策】 ①社会人としての心構えの定着と美化意識の向上 ②生徒に役割を与え、生徒が主体的に活動できる機会の創設 ③個人・三者面談等の情報を活用し、自覚を促す進路指導の充実 ④課題のある生徒・保護者のスクールカウンセラー活用	【自己評価】（〔 〕内は実績、【 】は昨年度） ・中途退学者 C[24 人]【24 人】・転学者 C[31 人]【26 人】・年間遅刻者 D[7315 人]【5748 人】 ・皆勤生徒数 C[1 年 9 名、2 年 12 名、3 年 9 名]【合計 40 名】 ・生徒や保護者の入学満足度 C[65%]【62%】 ・検定への挑戦(合格)B[231 名]【新規】 ・専科の資格(合格) A[100%]【100%】(介護福祉士・スキー・キャンプ・スクーパー) 【課題と改善策】 ・中途退学者が減少できていない。学校生活の楽しさや退学ではなく将来を考えた教育機関に繋がる転学意識を植えつけさせる。	評価 C
Ⅸ 人材育成	【重点目標】 何事にも主体的に取り組む生徒の育成に努めるとともに、社会の変化に的確に対応した学校改革の推進 【方策】 ①生徒の学習状況調査を活用し、育てる能力の改訂と授業改善 ②補習補講の充実や教材の共有化 ③デジタル技術の活用力を高め、生徒端末の活用方法の工夫 ④相互授業見学や若手の研究協議等による組織的な授業改善	【自己評価】（〔 〕内は実績、【 】は昨年度） ・中堅教員を講師とした若手教員の研究協議会 A[18 回]【新規】 ・相互授業見学者 B[平均 5.9 回／人 84.4%]【81%】 ・教育情報部主催のデジタル技術等の研修会実施 B[3 回]【3 回】 【課題と改善策】 ・校務分掌の研究会や研究授業後の協議会を実施し、若手教員の悩みやすい点の共通理解ができた。次年度も実施するとともに、授業が以前に向けた研究も追加する。 ・教育相互の授業見学者が昨年に比べ増加せず、通念を通して見学できる環境を整える。 ・デジタル教材開発は提示資料にとどまり、動画まではできていない。	評価 B
Ⅹ 経営企画室	【重点目標】 教職員と経営企画室との一体としての適切な学校運営 【方策】 ①行政職員からの予算を意識した業務進行等や効率向上のための提言を促進 ②適正かつ効果的な自律経営推進予算の編成・執行 ③自律経営推進予算や学校徴収金、生徒会予算の円滑な運用 ④施設設備の安全点検・修繕・整備	【自己評価】（〔 〕内は実績、【 】は昨年度） ・一般需用費のセンター契約集約率 C[56.7%]【63.7%】 ・1 月末までに次年度自律経営予算計画作成 B[2 月完成]【2 月】 【課題と改善策】 ・今年度は創立 50 周年事業や校舎老朽化による修繕が多く契約集約率が下がった。次年度は必要最低限のものを除き、センター契約を行う。	評価 B